【別添１】

令和３年度認定
【計画名: 長崎県文化観光推進地域計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
長崎歴史文化博物館の総入館者数（人）	150,000	167,231	111%	300,000	185,565	62%	360,000		370,000		400,000	
長崎歴史文化博物館の 外国人入館者数（人）	1,000	3	0%	2,000	1,166	58%	5,000		8,000		11,000	
長崎歴史文化博物館の 入館者満足度（%）	85	78	92%	86	93	108%	87		89		90	
中核施設の来館者数合計（長崎歴史文化博物館を除く）（人）	301,000	319,981	106%	554,000	439,680	79%	795,000		857,000		919,000	
中核施設の外国人来館者数合計（長崎歴史文化博物館を除く）（人）	8,700	910	10%	13,000	5,406	42%	19,000		30,000		43,000	
中核施設の所在地への来訪者数合計（延べ宿泊者数）（万人）	408	191	47%	423	集計中 (9月判明予定)	―	425		429		432	
中核施設の所在地への外国人来訪者数合計（ 延べ宿泊者数）（万人）	39	2	5%	42	集計中 (9月判明予定)	―	45		48		50	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

（分析）
・長崎歴史文化博物館をはじめとする中核施設の総入館者数については、R2年度実績がコロナ禍により過去最低の数字となったため、R3年度についてはより現実的な目標を設定し達成した。R4年度は、コロナ禍が落ち着いてくると予想してR3年度比で倍の入館者数を目標に掲げたが、新型コロナウイルス感染症の影響が継続したことにより目標の達成とならなかった。そうした中においても、入館者数は増加し回復傾向にある。
・中核拠点施設のメイン館である長崎歴史文化博物館の入館者満足度については、事業開始年度のR3年度は、目標に及ばなかった。事業開始2年目のR4年度は目標を達成することができた。
・外国人入館者数・来訪者数の未達は新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響が大きい。
（評価）
・中核施設の総入館者数についてR4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が継続したことにより目標に及ばなかったものの、R2年度、3年度、4年度と入館者数を回復させており、これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、各館が感染症対策を実施し安心して来館できる環境を整えたこと、文化観光推進事業によりコンテンツの充実、利便性の向上を図ったためと考えている。
・長崎歴史文化博物館の入館者満足度について、R3年度の目標未達の理由は、新型コロナウイルス感染症対応で体験型のコンテンツの使用を制限したこと、地域計画に基づく事業の完了が年度末間際となり事業効果が反映されなかったためと考えている。R4年度は、2年間地域計画で取り組んできた、コンテンツの充実、利便性の向上のための事業の効果が現れ、高い満足度となったと考えている。
・外国人入館者数・来訪者数については、新型コロナウイルス感染症による入国制限等の影響により、大幅に未達となったが、各中核施設は、展示解説等多言語化を進めるとともに制作した映像をインバウンド向けウェブサイトで発信するなど、受入体制を整えてきている。
・令和5年3月からは、長崎港等にもクルーズ船の入港が再開されており、今後、各中核施設の外国人観光客の増加が期待できる。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
事業１－①	先端技術等の活用による施設の魅力増進事業（長崎歴史文化博物館）	―	長崎県文化観光映像制作			98.1百万円
事業１－②	先端技術等の活用による施設の魅力増進事業（サテライト館）	―	平戸市生月町博物館島の館動画コンテンツ整備			
事業１－③	展示解説等魅力増進事業（長崎歴史文化博物館）	―	長崎歴史文化博物館の展示解説の多言語化			
事業１－⑤	展示解説等魅力増進事業（サテライト館）	長崎県美術館の展示解説の多言語化等 観光音声アプリ（まるっと！五島）の改修	五島観光歴史資料館の多言語化 平戸市生月町博物館島の館展示解説改修及び多言語化			
事業１－⑥	長崎歴史文化博物館《お白洲》寸劇の魅力増進事業	お白州寸劇の映像化、多言語化	お白州寸劇の映像化、多言語化			
事業１－⑦	デジタルアーカイブ整備活用事業（長崎歴史文化博物館・長崎県美術館）	現システムの状況調査及び新システムの検討	システムリニューアルの際に必要となる長崎歴史文化博物館の展示コンテンツの改修			
事業１－⑧	デジタルアーカイブ整備活用事業（南島原市）	―	絵図高精細デジタル化および多言語データベース作成（南島原市）			
事業１－⑨	フィールドミュージアム整備活用事業	フィールドミュージアム基本計画策定（南島原市）	―			
事業１－⑩	地域の文化資源魅力再発見・活用事業	歴博、県美、出島合同のシンポジウム実施	歴博、県美、有馬キリシタン遺産記念館が連携し「世界文化遺産長崎と天草のキリシタン関連遺産」をテーマとした講演会、スタディツアー、写真パネル展を開催・実施			
事業１－⑪	文化観光ガイドの育成・活用事業	―	潜伏キリシタン関連遺産の構成資産だけでなく、関連のある他の資産を含めてキリスト教信仰の広がりや弾圧の歴史などの説明できる文化観光ガイドを育成。			

事業２－①	利便性向上のための環境整備事業	長崎歴博にWi-Fi環境を整備 長崎県美にWi-Fi環境を整備	長崎県美のキャッシュレス決済整備			19.5百万円
事業３－③	文化観光連携コーディネーター人材活用事業	文化観光拠点施設間の連携強化に係る企画立案、事業実施等	文化観光拠点施設間の連携強化に係る企画立案、事業実施等			5.3百万円
事業３－④	長崎の特色ある食文化体験事業	食文化体験モニターツアーを実施	平戸の海外交流史に根差した食文化体験会開催（長崎県単独予算）			
事業４－①	長崎歴史文化観光ゾーン情報発信機能整備事業	－	長崎県の文化観光を紹介するためのWEBサイトの整備			5.6百万円
各年度ごとの実績額→		48.4百万円	80.2百万円			128.6百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

（分析）
○全体的に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から方法を変えたり、規模を縮小した事業もあったが、ほぼ予定通り実施することができた。
○事業１．文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業について
・文化観光拠点施設のメイン館である長崎歴史文化博物館については、長崎県の文化観光への興味喚起・理解促進を図る映像コンテンツの製作、展示解説の多言語化、長崎歴史文化博物館《お白州》寸劇の映像化、多言語化、長崎ミュージアムネットワークのリニューアル等魅力増進を図る事業を実施できた。
・文化観光拠点施設サテライト館においても、地域計画に基づき、映像作品の制作、展示の多言語化、音声アプリの改修、デジタルアーカイブの整備等、それぞれの館に必要な魅力増進事業が実施できた。
・事業1-⑩において、文化観光拠点施設のメイン館とその他の文化施設との連携事業を継続的に実施することができた。
・事業1-⑪により潜伏キリシタン関連遺産の構成資産だけでなく、関連のある他の資産を含めてキリスト教信仰の広がりや弾圧の歴史などの説明できる文化観光ガイドを育成できた。
○事業２．地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便性の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業について
・長崎歴史文化博物館におけるWi-Fi環境整備、長崎県美術館におけるWi-Fi環境整備、キャッシュレス決済システムの整備を実施することができた。
○事業３．地域における文化観光拠点施設その他の文化資源活用保存施設と飲食店、販売施設と宿泊施設、その他の国内外からの観光旅客の利便性に供する施設との連携の促進に関する事業について
・文化観光連携コーディネーターを雇用し、きめ細かい調整企画立案を行うことで施設間連携事業等円滑に実施できた。
・各地域の食文化を観光コンテンツ化する取組を継続して実施できた。
○事業４．国内外における地域の宣伝に関する事業
・長崎県の文化観光を紹介するためのウェブサイトを整備し、事業１で制作した長崎県の文化観光をPRする映像や地域の文化資源を多面的に紹介するたびながキューブを公開することができた。
（評価）
・全体としては、事業がほぼ予定通り実施できた。特に地域計画の前半において、各文化観光拠点施設の機能強化に関する取り組みを着々と進めることができた。
・新型コロナウイルス感染症の影響下であったものの、長崎歴史文化博物館をはじめとする各文化観光拠点施設において、多言語映像コンテンツ、展示の多言語化、Wi-Fi環境の整備等を実施できたことは、R4年度の長崎歴史文化博物館の満足度の向上に見られるように文化資源の魅力の向上に一定の効果があったと考えている。
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来訪者数の目標がR4年度は未達となっているが、各館の機能強化は概ね順調に進捗していると考えている。
引き続き必要な多言語化、ながさきミュージアムネットワークのリニューアル、展示の改善等を進め来館者の効用を高める事業を実施していく必要が有る。
・また、R3、R4年度と施設間連携事業、食文化体験事業と長崎歴史文化博物館で上映する県下全体の文化観光の興味喚起を促進する映像の整備等、計画地域内の周遊促進の取組も継続して実施してきているものの、地域計画の目標達成のためには、より効果的な施設間連携事業、各地域、県下全体の魅力の発信を行っていく必要が有ると考えている。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名 要件	長崎歴史文化博物館	長崎県美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・「西洋との出会い」や、「朝鮮・中国・オランダとの交流」等によりもたらされた「長崎貿易」と、それらに多分の影響を受けた「長崎の暮らし」には多くの長崎の文化資源が含まれ、それらに関連した資料を分野毎に分かりやすく展示している。また、展示の理解を通じて本件の歴史文化の理解に資する映像コンテンツをR4、R5年度で制作（補助事業）している。	・長崎県美術館の資料収集の柱のひとつに「長崎ゆかりの美術」があり、コロナ禍以降、これらに改めて光を当て、これらの研究成果を常設展示の一角にて、さらには拡大常設展として展示している。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・常設展示解説の一部にタブレットを使用している。 ・R3年度にWi-Fi整備（補助事業）を実施。	・R3年度にWi-Fi整備（補助事業）を実施。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・R3、R4年度にお白州寸劇の映像化・多言語化（補助事業）を実施。 ・R4年度に常設展示解説の多言語化（補助事業）を実施。R5年度も引き続き実施予定。	・R3年度に常設展示解説の多言語化（補助事業）を実施。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・長崎県文化観光推進地域計画において、長崎歴史文化博物館は中核施設の中でもメイン館に位置付けられており、館長が長崎県文化観光推進協議会の副会長に就任。地域計画や実施事業の評価や文化観光の総合的かつ一体的な推進を図るために必要な事項を、協議会の中心メンバーとして協議していく。	・長崎県文化観光推進地域計画において、長崎県美術館館長は長崎県文化観光推進協議会の委員に就任。地域計画や実施事業の評価や文化観光の総合的かつ一体的な推進を図るために必要な事項を、協議会の中心メンバーとして協議していく。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析	・来館者アンケートによる意見聴取を行うとともに、SNSへの反応や口コミサイトの投稿などの情報や、来館者統計を蓄積し、クロス集計の実施・分析を行い、事業計画の基礎とする。	・POSシステムで取得した展覧会チケットやショップ・カフェ、共通パス等の販売実績データを自館だけでなく地域一体のマーケティングリサーチに活用し、新商品の開発や来館者の満足度向上に取り組むことで来館者の増に繋げ、事業収入の増加や地域活性化を図る。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立	・文化観光の推進に関する事業の方針の策定については、まずは館の地力の向上が不可欠と考えており、館の機能強化につながる事業が優先されると考えるが、併せて、中核施設間はもちろんのこと、文化施設間や観光施設間等との継続的な連携が文化観光の推進に欠かせないことから、そちらにも力を入れていく。 ・地域計画におけるKPIは①総入館者数②外国人入館者数③入館者満足度である。 ・PDCAサイクルについては、個別の事業の満足度を測りながら、必要に応じて事業の取捨選択や再構築を行い、利用者重視のサービスの提供を行っていくことになる。	・文化観光の推進に関する事業の方針の策定については、まずは館の地力の向上が不可欠と考えており、館の機能強化につながる事業が優先されると考えるが、併せて、中核施設間はもちろんのこと、文化施設間や観光施設間等との継続的な連携が文化観光の推進に欠かせないことから、そちらにも力を入れていく。 ・地域計画におけるKPIは①来館者数②外国人来館者数である。 ・PDCAサイクルについては、個別の事業の満足度を測りながら、必要に応じて事業の取捨選択や再構築を行い、利用者重視のサービスの提供を行っていくことになる。

文化観光拠点施設名 要件	大浦天主堂キリシタン博物館	平戸市生月町博物館　島の館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・国宝の大浦天主堂をはじめとする様々な建造物や資料により長崎キリシタン文化を紹介している。	・平戸市域の特徴的文化要素であるかくれキリシタン信仰について、分かりやすく紹介する動画コンテンツの制作と上映に向け、まずは元データであるミニＤＶ動画を高品質デジタル動画に転換する。目下は事業に向けミニＤＶ動画の整理・準備を行っている。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	－	・モバイルガイドシステムに入力するための展示品の個別データを作成している。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・多言語パンフレット（英）を館内入口に配架し、主なパネル展示や収蔵品開設の多言語化（英）も行っている。	・モバイルガイドシステムに入力するための展示品の個別データを作成しているが、原文の読みが違わないようかな文データも制作している。また翻訳が容易なように平易な表現になるよう配慮している。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・長崎県文化観光推進地域計画において、大浦天主堂キリシタン博物館館長は長崎県文化観光推進協議会の委員に就任。地域計画や実施事業の評価や文化観光の総合的かつ一体的な推進を図るために必要な事項を、協議会の中心メンバーとして協議していく。	・展示のうち漁業関係については地元漁協と連携し、構築したモバイルガイドシステムを用いた魚介類のバイヤー等への紹介を検討中。また動画コンテンツについては世界遺産関連機関・施設のイベント等での紹介も検討している。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析	・年に1、2回、1週間くらいかけて来館者アンケートを実施し、展示内容の満足度や来館者のニーズを把握し、各種改善に努めている。	・整備後に実施するアンケートの成果を、展示内容や展示紹介方法の更新に役立てる予定である。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立	・他の中核施設と根本的に違うのが、所有者が行政ではなく宗教法人であること。国宝もあり、各種制限がある中で施設を開放し展示を行っているが、観光と施設の維持というのは基本的に相反するもの。文化観光の推進のためにも施設維持の財源を安定的に確保することが第一義である。 ・地域計画におけるKPIは①来館者数②外国人来館者数である。 ・PDCAサイクルについては、個別の事業の満足度を測りながら、必要に応じて事業の取捨選択や再構築を行い、利用者重視のサービスの提供を行っていくことになる。	・地方博物館の目的は地域情報を多様な形で多く発信する事にあり、それに基づいて事業の方針は従来の展示や冊子に留まらず、メディアやインターネットも活用した多様な情報発信を行う事にある。 ・地域計画におけるKPIは①来館者数②外国人来館者数である。 ・PDCAサイクルは個別の事業の満足度を測りながら事業の取捨選択と更新を図っていく事となる。

文化観光拠点施設名 要件	五島観光歴史資料館	有馬キリシタン遺産記念館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・五島の歴史文化の特長となっている「遣唐使」「倭寇」「キリシタン文化（世界遺産含む）」を動画、展示を用いて解説している。 また、民俗芸能、民具、捕鯨関連の資料も展示している。	原城跡、日野江城跡の出土遺物を中心に展示している。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のストーリーの起点となる原城跡の価値が伝わるよう、「島原・天草一揆」が起こるまで、起こった後のストーリーを時系列で紹介している。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・来館者用にWi-Fi整備済み。	アプリ「有馬歴史ガイド」をアプリ「南島原市情報局」に移行し、文化財のみだけではなく、市の観光などの情報発信を行っている。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・R4年度において、文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）を活用して、1階の五島の歴史文化・観光情報のハイビジョンシアター、２階の遣唐使・倭寇の展示映像及び３階の世界遺産ガイダンス映像の多言語化を整備済み。	令和４年度から絵図の高精細デジタル化、多言語データベース化を行っており、外国人観光客にも対応できるよう取組を行っている。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・ジブリ作品の背景画などを数多く手掛けた五島市出身のアニメーション美術監督、山本二三氏の描いた背景画や教会など五島を描いたオリジナル絵画を展示している「山本二三美術館」と連携し割安となる共通券を発行するなど、近隣施設とも情報共有しながら観光客の利便性の向上を図っている。 ・また、日本ジオパークに認定された五島列島ジオパーク推進協議会とも連携しながら特別展などを企画情報共有を行うなど、観光客の利便性の向上による地域内周遊などの推進を図っている。	南島原市世界遺産市民協働会議という市内の民間企業等で構成された団体がある。文化観光の推進についてワークショップを行い、情報発信のための看板制作などの取組を行っている。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析	・多言語化整備事業完了後に実施するアンケートの成果等を、展示内容や展示紹介方法の更新に役立てる予定である。	絵図の高精細デジタル化を進めるため、全国にある絵図の悉皆調査を行っている。 原城跡出土遺物の名称や解説を多言語化し、データベースを作成している。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立	・入館者数の目標を定め、特色ある特別展示や市イベントに合わせた特別展示を開催するなど来館者数増加に向け取り組んでいる。 ・地域計画におけるKPIは①来館者数②外国人来館者数である。 ・また、上記の連携体制の構築や、データ収集・分析の強化により、適切なKPIの設定やPDCAサイクルの確立を行い、特別展示や企画展、臨時イベントなど、より効果的な事業を展開していく。	・文化観光の推進に関する事業の方針については、原城跡に関する資料が全国に点在している状況となっていることから、絵図の高精細デジタル化を行うことで、当館で様々な資料を見学できるよう進めている。併せて、外国人観光客に対応できるよう多言語データベース化を進めている。 ・地域計画におけるKPIは①来館者数②外国人来館者数である。 ・PDCAサイクルについては、来館者の意見・感想を取り入れながら、事業について改善を行うこととしている。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
(一社)長崎県観光連盟	地域計画の目標について、各中核拠点施設への入館者数や地域への来訪者数に関しては、R3、R4年度と新型コロナウイルス感染症の影響下にあったため、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業の効果を具体的に評価することは難しい。 一方で、R3、R4年度と長崎歴史文化博物館をはじめ各中核拠点施設の多言語化、利便性の向上を進められたことは施設の魅力、地力の向上につながり、観光振興に寄与するものと考えている。長崎歴史文化博物館の満足度向上は、少なくとも、来館者に対しては、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業の成果が現れたと考えるとことができる。 今後アフターコロナとなっていく中において、地域計画の目標を達成していくためには、各施設に必要な機能強化について着々と進めることはもとより、各館の向上した魅力についての情報発信、施設間の関連性やそれぞれの価値を一体的に発信する等の施設間の連携事業や観光客を呼び込むためのソフト事業の充実もより重要となってくると考える。

⑦今後の改善の方向性

アフターコロナにおいて、地域計画の目標を達成していくために、引き続き各施設に必要な機能強化、コンテンツの拡充を実施する。
また、長崎県文化観光推進協議会の場等で文化観光推進事業者等の意見を取り入れながら、各館の向上した魅力についての情報発信、施設間の関連性やそれぞれの価値を一体的に発信する等の施設間の連携事業や観光客を呼び込むためのソフト事業について効果的な手法を検討し事業化していきたい。